



高齢者支援事業『ふれあいの集い』。高齢者と子どもたちがゲームや食事会で楽しいひと時を過ごす



年始に行われる『三社詣』。護国神社、旧藤崎八幡宮、段山八幡宮を約100人が参拝する



毎年5月と11月に、一新まちづくりの会や校区の子どもたちが行うクスノキ群一帯の清掃活動



一新校区の各町内毎に行われる地蔵まつり。多くの人が集まり、城下町の雰囲気よみがえる

でなく、校区単位であるのは珍しいと思いますよ」と北村さん。協議会の役割は主に行政と福祉関係者の情報交換ですが、「それを、地域レベルにしたかったんです」。いわば、「お隣の○○さんに必要な支援は何か」を考え、対応できるようにすることが目

的。そのために、講演会や体験発表会などの勉強会を行い、「メンバーのレベルを上げるためにがんばっています」と毛利さんも語ります。

多くの福祉施設や相談事業所がある中、まちづくりの会自ら立ち上げるに全面協力したのが授産施設『新町きぼうの家』。廃業した店から古い機械を譲り受け、通所者らが手焼きのせんべいを製造、熊本市内のスーパーに卸しています。「おいしいので人気なんです。最初は私が教えましたけど、今は、通所者の先輩が後輩に教えて焼いています」。こう語るのは、一新まちづくりの会の橋本和彦さん。「作業所も3つに増えました。商店街の空き店舗対策にもなっています」。

障がいを持つ子に より多くの選択肢を もう

一つ、一新校区で注目を集める障がい者支援事業が、『ふれジョブ熊本・せいざん』です。「ふれジョブは

の仕事の選択肢を増やしてあげたい」と北村理事長。一つの企業でのふれジョブは最長6カ月。理由は、できるだけ多くの職種を経験してもらうためです。ふれジョブを通じ、「子どもさんも保護者の方も違和感なく地域にデビュー」してもらえるように、偏見をなくし、障がいへの理解力を含めた「地域力」を付けたいんですよ」と北村さんは言います。

もっと磨きたい 「自分たちの町」 その

他に、高齢者支援も、地域の重要なテーマ

です。校区では、高齢者支援として、社会福祉協議会などを中心に、ふれあいきいきサロンや、高齢者と子どもたちの交流事業「ふれあいの集い」も行っています。高齢者と地域とのふれあいを通じて同居や夫婦世帯の高齢者の孤立も防止するのが狙い。住民同士の連帯づくりにも一役買っています。「この町は磨けばもっといい町になる。自分たちの手で作り上げていかないと」と毛利さんは笑顔で話してくれました。校区の皆さんの絆と信念が、いつまでも安心して暮らせる町の礎となっているようです。



一新校区自治協議会の毛利秀士会長(右)と一新まちづくりの会の北村直登理事長(左)

一新校区 (平成25年4月現在)

人口計:9,839人
世帯数:5,068世帯
町内自治会数:16

